

---

# 魔王様のお尻を拭う誇りあるお仕事です

あじやぱ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔王様のお尻を拭う誇りあるお仕事です

### 【Zコード】

N4072V

### 【作者名】

あじやぱ

### 【あらすじ】

偉大なる魔王さまのお尻を優しく拭う宰相さまのおはなし（嘘）

「だから一行ずれてるつづてんだらうがつーこのクソ売〇ー！」  
宰相である俺、ソレイル自らが精魂こめて形にした書類、それにサインするだけの簡単な仕事だ、だがこのクソ女はそれを無駄にしやがったのだ。視線をビチ ソ女の手元にやれば、嗚呼無残！俺の手塩にかけた書類ちゃんは、あるべき所にサインを貰えずに、そこから一行ずれた所にきつたねえサインで汚されていた。待ってる書類ちゃん、敵はとるからな。

怒りにまかせて田の前にあるビ ソ女の黒い頭を、空間魔法で取り出した魔剣でぶつたたく、もちろん魔力は最大限までこめて。だが非常に不本意ながらこいつは魔王で、一応宰相ではあるが俺は武官でもない文官だ。圧倒的なまでにレベル差があるため、頭をかちわるどころか、髪一筋さえ傷付けることはできなかつた。

「い、痛いのう、痛いのう！」

「痛くしてんだよクソ女、お前いい加減にしろよ、なんで書類にサイン程度も出来ねえんだよ」

「ひどいのう、ひどいのう…ソレイル、主はもう少し田上を敬えんかの？わしはのう魔王なんじやぞー！おまけにどびつきりの美少女なんじやぞー！ちょっとくらこやかしうしても罰はあたらんぞー！」

魔剣ではたいた頭をさすり涙目になつていた魔王が、敬えー！大事にしろーと胸をそらしている。

つやつやと光を纏つたような黒髪、雪のように白く綿のよつに滑らかそうな肌、キラキラと星より輝く瞳、物語にうたわれる姫のような美しさを持っている、確かにその美は魔王に相応しいものであると俺も認めよー。

でもなあ、みてみろよあの胸。本人は精一杯張つてんだらうけど全

然張れてない。いや、あれを胸と言つたら全女性に失礼だな、あれはただのまな板だ。もしかしたら新人武官のジャス君（125歳）のがまだ胸あるんじゃないか？但しジャス君のは筋肉だが。

「なんじゃその目は！？わ、わしをあわれむな」

「はいはい、あわれんでないあわれんでない、フロレット様は偉大なお方なので書類仕事なんて地味なお仕事しませんよねーだからその御璽寄せよ、お前の代わりに仕事してやつから」

眼前に笑顔で掌を差し出してやると、魔王はぶるぶると震えながら手元にあつた金の印を胸に抱えた。いくら奴が馬鹿でマヌケなビチソ女だろうが、王位の証であり、王の権力の証でもある御璽を渡すわけがない。

「ぬ、主はわしに成り代わるひと…………？」

ぶるぶる、ぶるぶる、としか形容しようがない、情けないが小動物のように可愛らしいと言えなくもないかもしけないフロレット様を見て、苛立ちと怒りがおさまる。だが、ほんの少し落胆に似た何かが胸の内をかすめた。いや、別に疑われたのがショックだったとかそんななんじゃねえし。てか、こんな下剋上まがいのこと俺が言う訳無いのは考えなくともわかるだろうが。お前みたいな使えない魔王の尻拭いにこちとら魔族生の殆どを捧げてんのに、クソ女、わかれよ、と言いたい。注意してほしいんだが、わかつてほしいのは魔王への忠誠心であつて、断じてフロレット様への某かの感情なわけではない、いや某かの感情なんてのはそもそもない、断じてないからな。

だがその小動物っぷりに、まあ、勘弁してやろうかと思つた瞬間、ドアが開かれた。

「追加書類お持ちしましたー！」

「た、たすけてたもれーー！」

積み重ねた追加書類をまるで居酒屋の店員みたいに絶妙なバランス

で運んできた文官に、ふるふると震えていたフロレット様がタックルかました。

結果、おおなだれ。

わんわん泣きながら文官に抱き着くフロレット様を引きはがして、ゲンコツを一つ食らわす。いつまでくつついでんだクソビチ。やっぱりレベル差のせいで大したダメージは与えられなかつた。いつもより痛いと言われたが、何故か妙に力がはいつてしまつたせいだろ？、逆に俺の手が痛い。

そして、まーた魔王様の斜め上暴走ですかって呆れた目の文官を追い出してから、俺はフロレット様を椅子に座らせ、その右手に御璽を縛り付ける。

「はい、右手に御璽持ちましたね、じゃあ書類出しますので真っ直ぐに右手を下ろすだけしてください」

「わ、わしは御璽押し人形ではないぞっ！嫌じや嫌じや！！」

喚く馬鹿を無視して、俺の魔王様の尻を拭う仕事は再開した。これまでの魔族生の殆どを捧げ、そしてこれから死ぬまでもきっと俺はフロレット様の尻拭いを続けるんだろう。

宰相の地位にあるからではなく、忠誠心だけでもなく、だけど俺はフロレット様を助けずにはいられない。

必死に御璽押しを続けるフロレット様を見下ろし、俺はため息をついた。厄介なのに捕まつたなと思いながら。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4072v/>

---

魔王様のお尻を拭う誇りあるお仕事です

2011年10月8日04時20分発行